

2. 秦漢～魏晋南朝：西南夷の「発見」と南中社会の成立④

2.7 六朝時期（3世紀末～6世紀）

■蜀の滅亡後：魏（晋）－呉対立の形勢

南中は魏に属し、さらにその南の交趾（今のハノイ）に影響を及ぼす
魏と呉とのあいだで交趾の争奪戦→南中大姓が交趾に出征

■寧州の成立

太康元年（280）廩降都督を寧州に改める（益州から分離）治所は晋寧

太康3年（282）寧州を廐し、南夷校尉を置く（南中七郡の軍事を統領）

太安元年（302）寧州を復置



『爨龍顏碑』の拓本（出典は欄外）

■西晋中期以降

中原の混乱（八王の乱／永嘉の乱）→支配力の後退・分裂状態

「晋民或いは交州に入り、或いは永昌・牂柯に入り、半ば亦た夷の困虜とする所と為る」（南中志）

→僰人の移動と関係？

■六朝後期の雲南地方

雲南東部：爨氏（さん）曲靖・陸良・昆明などに同族の支配者／刺史・太守などを自称・世襲

雲南西部：「張氏白子国」　白崖（大理州弥渡）を中心とする政権／またの名を「建寧国」

■『爨龍顏碑』

- ・爨氏は中原の出身で、班氏の流れであるとの主張
- ・祖先は晋寧・建寧の太守を歴任　「寧州刺史」「八郡監軍」：権勢は南中全体におよぶ
- ・壬申（432）の戦役で軍功

■張氏白子国

- ・唐代の白蛮=元代の僰人=現在の白族との関連で語られる
- ・「建寧国」の名：中原の乱を避け流入した漢人が滇池地区（=建寧郡）経由で大理地区へ？
(その中に「僰人」が含まれた可能性?)
- ・問題点：元代以降の史料にしかでてこない（→南詔国=蒙氏への遜位伝承）

■「大姓」から「蛮」へ

- ・爨氏・白子国ともにその先は漢人、との伝承

魏晋～南北朝期には「大姓」→隋唐時期には「蛮夷」（非漢民族）

→「夷化」少数民族に同化して漢文化を失う？（同地域で漢人は圧倒的に少数のため）

※いかに少数とはいっても、統治地位にあるものが簡単に同化されるか？

→「本来の文化は保持しつつも、中原との間に格差を生じた」可能性

■爨氏の扱いの変化

「南中大姓」→「諸爨・氐」（『南齊書』）／「西爨蛮」（『隋書』『唐書』）

・南朝の支配下→（南齊時代ほぼ放置）→梁→西魏・北周という領有政権の推移も関係？

史料 2.11 『宋故龍驤將軍護鎮蠻校尉寧州刺史邛都縣侯爨使君之碑』

君諱龍顏，字仕德，建寧同樂〔縣人。其先少昊〕顓頊之玄胄，才子祝融之渺也。清源流而不滯，深根固而不傾。夏后之盛，敷陳五教，勳隆九土，純化〔治於千〕古，仁功播於万祀，故乃耀輝西岳。霸王郢楚，子文詔德於春秋，斑朗紹縱於季葉。陽九運否，蟬蛻河東，逍遙中原。斑彪刪定『漢記』，班固述脩『道訓』。爰暨漢末，菜邑於爨，因氏族焉。

姻姪媾於公族，振纓蕃乎王室。迺父肅，魏尚書僕射、河南尹，位均九列，舒翮中朝，遷運庸蜀，流薄南入，樹安九世，千柯繁茂，萬葉雲興；鄉望標於四姓，邈冠顯於上京。瑛豪繼體，於茲而美。祖晉寧、建寧二郡太守、龍驤將軍、寧州刺史。考龍驤輔國將軍、八郡監軍、晉寧、建寧二郡太守，追謚寧州刺史、邛都縣侯。金紫累跡，朱黻充庭。君承尚書之玄孫，監軍之令子也。……

歲在壬申，百六遭釁，州土擾亂，東西二境，凶豎狼暴，緬戎寇場；君收合精銳五千之衆，身伉矢石，撲碎千計，肅清邊嵎。君南中磐石，人情歸望，遷本号龍驤將軍、護鎮蠻校尉、寧州刺史、邛都縣侯。君姿瑛雄之高略，敦純懿之弘度，獨步南境，卓爾不羣雖子產之在鄭，篾以加焉。是以蘭聲既暢，福隆俊嗣者矣，自非愷悌君子，孰能若斯也哉！昊天不吊，寢疾弥篤，亨年六十一年，歲在丙戌十二月上旬薨。黎庶痛悼，宋夷傷懷，天朝遠感，追贈中牢之饋也。……

……

寧州長子麟弘早終，次弟麟紹、次弟麟暄、次弟麟崇等，建樹此碑。

太明二年歲在戊戌，九月上旬壬子朔，嗣孫碩□、碩□、碩□、碩萬、碩思、碩〔闇〕、碩羅、碩闡、碩俗等立。

匠碑，府主簿益州杜萇子；

文，建寧爨道慶作。

(碑陰)

府長史建寧爨道文
司馬建寧爨德文泯
錄事叅軍武昌郡尉劉觀
功曹叅軍建寧孟慶倫
倉曹叅軍建寧爨碩登
戶曹叅軍建寧周賢
中兵叅軍鴈門郡王令文

府功曹建寧爨毅
主簿建寧趙道生

別駕建寧爨敬祖
治中晉寧趙世伐
主簿建寧爨德融
主簿建寧孟叔明
西曹益寧楊琼子
西曹晉寧路雄

鎮蠻長史建寧爨世明
司馬建寧爨順靖
錄事叅軍建寧毛璋予
功曹叅軍朱提李融之
倉曹叅軍牂柯謝國予
戶曹叅軍南廣楊道育
中兵叅軍建寧爨孫記

蠻府功曹建寧李延祖
主簿建寧孟令孫
主簿建寧孟順德

門下建寧爨連迫
錄事弋陽郡舒征
西曹建寧周令活
戶曹建寧陳世敬
省事安上輿稚圭
書佐建寧孟羅
幹張孫明

錄事孟林
西曹劉道善
戶曹尹仲常
記室張叔熬
朝直張世保
麾下都督王道盈
□□彥頭
□□□汝
□□康

門下張尋
錄事萬敬
西曹尹開
戶曹來叔子
省事李道學
書佐單仲
幹盛慶子

史料 2.12 『南齊書』卷十五 州郡志下

寧州，鎮建寧郡，本益州南中，諸葛亮所謂不毛之地也。道遠土瘠，蠻夷衆多，齊民甚少，諸爨、氐彊族，恃遠擅命，故數有土反之虞。領郡如左……（下略）

3. 隋唐の雲南経営と西南民族①

3.1 北周／隋の雲南経営

■南北朝期の中原王朝と南中

南朝各朝（東晋・宋・南齐・梁・陈）は代々寧州刺史を任命したが、ほとんどは「遥領」のみ
6c前半 北魏と梁の間で益州の争奪戦 梁の蕭紀、徐文盛らの西南統治
553 侯景の乱に乗じて西魏が巴蜀の地を奪取

■北周／隋による四川平定（580）

557 宇文泰が北周を建国、爨瓚を寧州刺史とする
(それまでと違い現地住民の首領を刺史に任命→隋唐の「羈縻州県」の端を開く)

570 北周、越巂を平定後、西寧州を設置

580 梁睿^{りょうえい}が益州総管となり、四川を平定

※四川平定後の梁睿の建議：

「戸口殷衆、金寶富饒、二河有駿馬、明珠、益寧出鹽井、犀角。」→物産に対する注目
「漢代開此、本爲討越之計。伐陳之日、復是一機、以此商量。」→南朝の陳を攻撃するための迂回路
→文帝には採用されなかったが、史萬歳の遠征の根拠となる

■南寧州総管府の設置

584（頃）韋世冲を南寧州総管に任命 →武力を用いず、平和的に南中諸部を慰撫する

- ・爨地に南寧州総管府を置く
- ・旧朱提郡→恭州、建寧郡・興古郡→昆州
- ・犍爲郡→協州（雲南郡は昆州に帰属）→「州・郡・県」制を「州・県」制に改める
- ・現地の酋長大姓を刺史に任命（爨翫→昆州刺史）

■劉噲之らの遠征（595-596頃）

大將軍劉噲之らを派遣、西爨を討つ。楊武通を行軍総管とし、蜀王楊秀に命じて監軍を派遣。

「武通、弘農華陰人、性果烈、善馳射。數以行軍總管討西南夷、每有功，封白水郡公、拜左武衛大將軍。」（『隋書』卷53楊武通伝）→西南遠征がたびたび行われていたことがわかる

■史萬歳の遠征（597）

- ・爨翫^{がん}：隋朝にいたん服属したが、すぐに反抗→左領軍將軍史萬歳を派遣して鎮圧
- ・清渓閔路より入り、洱海地区を経由して滇池地区へ→爨翫をとらえる→翫の賄を受け釈放
(のち発覚して史萬歳は処分される)
- ・爨翫は翌年(598)ふたたび反す→隋朝は再度出兵、
爨翫は大軍をおそれて降伏、朝廷に連行された後処刑され、子供たちは奴隸とされる

■南寧地区の放棄

※煬帝の時代に恭州・協州・昆州など南寧地区（爨氏の勢力圏）の州は次々に廃される
(今の四川南部・貴州など爨氏の勢力が及ばない地区の經營は継続される)

史料 2.13 『增訂南詔野史』卷上

白子國

漢武帝通西南夷，遣使至滇，求身毒國。滇王常羌問使者曰：「漢孰與我大？」使者還報，武帝怒其言不遜。時白崖國蒙且頌之後，天竺國白飯王之裔仁果者，為衆所推立於白崖。武帝乃冊封仁果為王，號白子國，後遷於瀘江。迨龍佑那繼之，號建寧國。又一說：白子國之先，有阿育國，王能乘雲，上天娶天女，生三子，長季二子封於金馬、碧雞，獨封仲子於蒼洱之間，崇奉佛教，不茹葷，日食白飯，人因稱為白飯王。迨後有仁果者，漢封為滇王，號白子國。又十五世至龍佑那，後漢諸葛武侯南征，次白崖，以佑那為酋長，賜姓張氏，仍統其民，號建寧國。

史料 3.1 『隋書』卷三十七 梁睿伝

睿時威振西川，夷、獠歸附，唯南寧酋帥爨震恃遠不賓。睿上疏曰：「竊以遠撫長駕，王者令圖，易俗移風，有國恒典。南寧州，漢世牂柯之地，近代已來，分置興古、雲南、建寧、朱提四郡。戶口殷衆，金寶富饒，二河有駿馬、明珠，益寧出鹽井、犀角。晉太始七年，以益州曠遠，分置寧州。至偽梁南寧州刺史徐文盛，被湘東徵赴荊州，屬東夏尚阻，未遑遠略。土民爨瓚遂竊據一方，國家遙授刺史。其子震，相承至今。而震臣禮多虧，貢賦不入，每年奉獻，不過數十匹馬。其處去益，路止一千，朱提北境，即與戎州接界。如聞彼人苦其苛政，思被皇風。伏惟大丞相匡贊聖朝，寧濟區宇，絕後光前，方垂萬代，闢土服遠，今正其時。幸因平蜀土眾，不煩重興師旅，押獠既訖，即請略定南寧。自盧、戎已來，軍糧須給，過此即於蠻夷徵稅，以供兵馬。其寧州、朱提、雲南、西爨，並置總管州鎮。計彼熟蠻租調，足供城防倉儲。一則以肅蠻夷，二則裨益軍國。今謹件南寧州郡縣及事意如別。有大都督杜神敬，昔曾使彼，具所諳練，今并送往。」書未答，又請曰：「竊以柔遠能邇，著自前經，拓土開疆，王者所務。南寧州，漢代牂柯之郡，其地沃壤，多是漢人，既饒寶物，又出名馬。今若往取，仍置州郡，一則遠振威名，二則有益軍國。其處與交、廣相接，路乃非遙。漢代開此，本為討越之計。伐陳之日，復是一機，以此商量，決謂須取。」高祖深納之，然以天下初定，恐民心不安，故未許。後竟遣史萬歲討平之，並因睿之策也。

史料 3.2 『隋書』卷四十七 韋〔世〕沖伝

……俄而起為南寧州總管，持節撫慰。復遣柱國王長述以兵繼進。沖上表固讓。詔曰：「西南夷裔，屢有生梗，每相殘賊，朕甚愍之，已命戎徒，清撫邊服。以開府器幹堪濟，識略英遠，軍旅事重，故以相任。知在艱疚，日月未多，金革奪情，蓋有通式。宜自抑割，即膺往旨。」沖既至南寧，渠帥爨震及西爨首領皆詣府參謁。上大悅，下詔褒揚之。其兄子伯仁，隨沖在府，掠人之妻，士卒縱暴，邊人失望。上聞而大怒，令蜀王秀治其事。益州長史元巖，性方正，案沖無所寬貸，沖竟坐免。

史料 3.3 『隋書』卷五十三 史万歲伝

先是，南寧夷爨翫來降，拜昆州刺史，既而復叛。遂以萬歲為行軍總管，率衆擊之。入自蜻蛉川，經弄凍，次小勃弄、大勃弄，至于南中。賊前後屯據要害，萬歲皆擊破之。行數百里，見諸葛亮紀功碑，銘其背曰：「萬歲之後，勝我者過此。」萬歲令左右倒其碑而進。渡西二河，入渠濫川，行千餘里，破其三十餘部，虜獲男女二萬餘口。諸夷大懼，遣使請降，獻明珠徑寸。於是勒石頌美隋德。萬歲遣使馳奏，請將翫入朝，詔許之。爨翫陰有二心，不欲詣闕，因賂萬歲以金寶，萬歲於是捨翫而還。蜀王時在益州，知其受賂，遣使將索之。萬歲聞而悉以所得金寶沉之於江，索無所獲。……明年，爨翫復反，蜀王秀奏萬歲受賂縱賊，致生邊患，無大臣節。上令窮治其事，事皆驗，罪當死。……